

## <マルクスの主な著作>

- 『デモクリトスの自然哲学とエピクロスの自然哲学の差異』 (Differenz der demokritischen und epikureischen Naturphilosophie) (1840年)
- 『ヘーゲル国法論批判 (Kritik des Hegelschen Staatsrechts)』 (1842年)
- 『ヘーゲル法哲学批判序説 (ドイツ語版)』 (1843年)
- 『ユダヤ人問題によせて』 (1843年)
- 『経済学・哲学草稿 (ドイツ語版)』 (1844年)
- 『聖家族』 (1844年、エンゲルスとの共著)
- 『ドイツ・イデオロギー』 (1845年、エンゲルスとの共著)
- 『哲学の貧困 (ドイツ語版)』 (1847年)
- 『共産党宣言』 (1848年、エンゲルスとの共著)
- 『賃金労働と資本 (ドイツ語版)』 (1849年)
- 『フランスにおける階級闘争 (Die Klassenkämpfe in Frankreich 1848 bis 1850)』 (1850年)
- 『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』 (1852年)
- 『経済学批判要綱』 (1858年)
- 『経済学批判』 (1859年)
- 『フォークト君よ (ドイツ語版)』 (1860年)
- 『剰余価値理論 (ドイツ語版)』 (1863年)
- 『価値、価格と利益 (ドイツ語版)』 (1865年)
- 『資本論』 (1巻1867年、2巻1885年、3巻1894年。2巻と3巻はマルクスの遺稿をエンゲルスが編纂・出版)
- 『フランスにおける内乱 (Der Bürgerkrieg in Frankreich)』 (1871年)
- 『ゴータ綱領批判』 (1875年)
- 『労働者へのアンケート (ドイツ語版)』 (1880年)
- 『ザスーリチへの手紙 (ドイツ語版)』 (1881年)

(ウィキペディア「カール・マルクス」の項目より引用)